



コスモス



コスモスは、(1)に花だんや畑などで、ピンク色などの花をさかせているのが見られます。

成長のようす

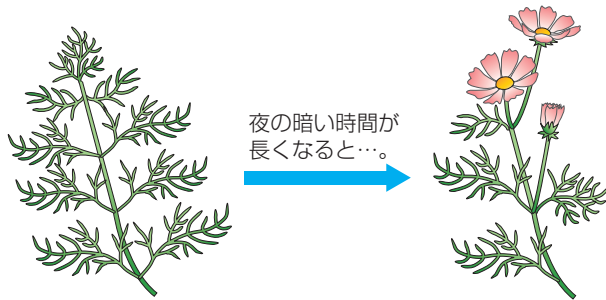


コスモスは(2)です。春から夏にかけて種子をまくと発芽し、成長して(3)に花をさかせます。

開花条件



コスモスは、1日のうちで暗い時間の長さが一定より(4)なる(日が短くなる)とつぼみをつけ、開花する(5)です。

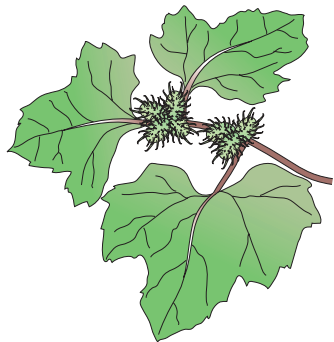


オオオナモミ



オオオナモミは、実(6)がたくさんあり、動物のからだにくっついて運ばれることで知られています。草むらや道ばたに生えています。

オオオナモミは(7)です。初夏ごろに発芽して成長したあと、夏から秋に花をさかせます。そのあと実をつけると、やがてかれます。



実の拡大



+ プラスワン

オオオナモミは外来種です。日本にもともとあったとされるオナモミも、オオオナモミと同じようにとげのある実をつけます。

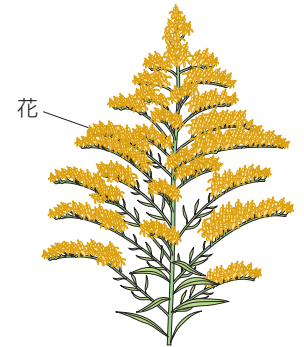
セイトカアワダチソウ



セイトカアワダチソウは、草むらなどにたくさん生えており、(8)になると黄色の花をさかせます。背が高いためよく目立ちます。

セイトカアワダチソウは(9)ですが、現在では日本の広いはん囲で見られます。

セイトカアワダチソウは(10)です。



+ プラスワン

外来種であるセイトカアワダチソウは、ススキなどの昔から日本で生育していた植物などと生える場所が同じであるため、生育場所をめぐる争いが起きます。

アメリカセンダングサ

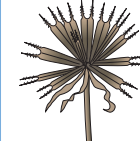


アメリカセンダングサは、細長い実(11)がついており、動物のからだにくっついて運ばれることで知られています。

アメリカセンダングサは(12)ですが、現在では日本の広いはん囲で見られます。日本にもともと生育していたセンダングサの実も、とげがついています。



実の拡大



+ プラスワン

アメリカセンダングサの実やオナモミの実は人の服などにもよくくっつきます。それらは「ひつつき虫」とよばれます。

アメリカセンダングサは(13)です。春に種子が発芽したあと成長し、夏から秋に花をさかせます。そのあと実をつけ、やがてかれます。

ジャガイモ



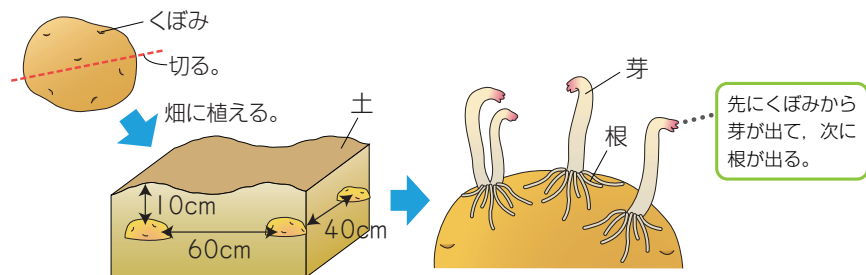
ジャガイモは、野菜として土の中にできたいも^{ぶぶん}の部分が食用とされています。ジャガイモのいもは根ではなく、⁽¹⁴⁾です。

ジャガイモはふつう、種子ではなく⁽¹⁵⁾からさいばいされます。⁽¹⁶⁾に⁽¹⁷⁾を植えつけると、⁽¹⁸⁾から⁽¹⁹⁾に^{しゅう}収かれます。秋に植え、冬に収かくする場合もあります。ただし、ジャガイモは保存がきくため、1年中出回っています。

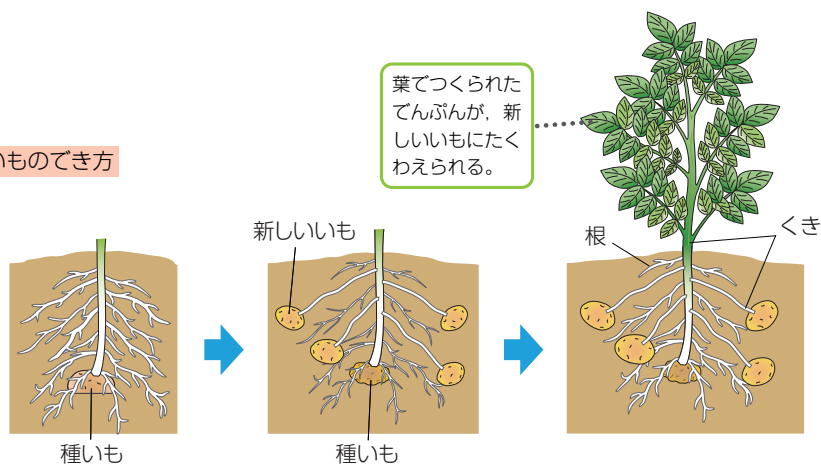


成長のようす

ジャガイモのくぼみから⁽²⁰⁾が出ると、次に芽の根元から⁽²¹⁾が出てきます。成長して花をさせたあと、種子ができるとやがてかれます（種子はできないこともあります）。

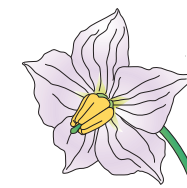


いものでき方



花のつくり

ジャガイモの花は、花びらは⁽²²⁾に分かれています、根元ではくっついてます。花の色は種類によって異なり、うすいピンク色やむらさき色、白色のものなどがあります。

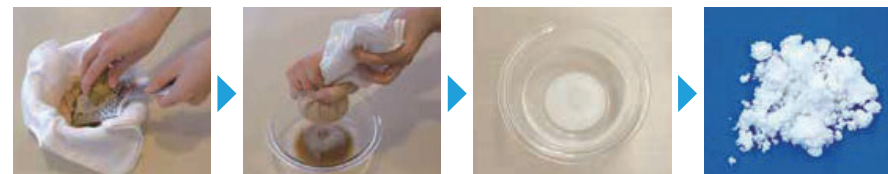


受粉の仕方

ジャガイモの花は、昆虫に花粉を運んでもらう⁽²³⁾です。

でんぷんの取り出し方

ジャガイモのいもには、発芽とそのあとしばらくの成長に使われる養分として⁽²⁴⁾がたくわえられています。でんぷんが水に⁽²⁵⁾性質を使って、ジャガイモのいもからでんぷんを取り出すことができます。



じゃがいもを
すりおろす。

ふきんで包み、
水の中にしぼる。

しばらく置いてでんぷん
をしずませる。上ずみを
すて、新しい水を加える。

上ずみがとう明にか
わったら、水をすて
てかわかす。

+プラスワン

ジャガイモから取り出されたでんぷんは「片栗粉」として売られ、料理に使われます（昔はカタクリから取り出されていました）。トウモロコシから取り出されたでんぷんは「コーンスターチ」として売られ、料理などに使われます。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載していません。